

発行者：熊本県
所属：むらづくり課
発行年度：令和3年度



熊本むらづくり

…… 活動事例集 ……

表 1



熊本県農林水産部農村振興局 むらづくり課
〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号(行政棟 本館9階)
TEL.096-333-2415 FAX.096-385-5025
[HP]<https://kumuu.site>



熊本
むらづくり
人材
コミュニティ

表 4



目次

「熊本むらづくり人材育成塾」とは?..... 01

「熊本むらづくり人材コミュニティ」とは?..... 02

熊本むらづくりのための4つのポイント..... 03

熊本むらづくりフロントランナー..... 05

01 宮部 和雄「NPO法人あめのゆみ」
〈移住・福祉〉..... 07

02 出口 貴啓「山の都地域しごとセンター」
〈移住・学生〉..... 08

03 西守 信二「アルモンデ・結熊自然農園」
〈農業・コミュニティ〉..... 09

04 齋藤 剛司「合同会社リゴウサービス」
〈復興・継業〉..... 10

05 村上 貴志「U・B・i・t・o JAPAN株式会社」
〈移住・ネットワーク〉..... 11

06 松井 美祐紀「一般財団法人学びやの里」
〈移住・賑わい〉..... 12

07 米川 博子「なごみの郷地域づくり協議会」
〈販売・デザイン〉..... 13

08 榎木 すみ子「熊本県ふるさとディレクター」
〈森林・農泊〉..... 14

09 岩田 陽一「ジビエ工房やまと」
〈ジビエ・流通〉..... 15

10 一川 清一「NPO法人みさと」
〈福祉・コミュニティ〉..... 16

11 前田 亮介「株式会社河内研究所」
〈発信・メディア〉..... 17

12 中村 香織「阿蘇ジオパークガイド協会」
〈ガイド・ライター〉..... 18

13 山本 博「七七屋山本堂」
〈交流・拠点〉..... 19

14 柴尾 健二「たまなフラワーパーク」
〈パーク・キャンプ〉..... 20

15 原 健史「一般社団法人夢・理想の里」
〈食育・コミュニティ〉..... 21

16 持田 美沙子「和み場「すまいとりのわ」」
〈交流・木材〉..... 22

17 城本 眞澄・誠也「赤井台地の史跡を守る会」
〈伝承・農泊〉..... 23

18 前田 博典「社会福祉法人豊心の里」
〈福祉・拠点〉..... 24

19 野口 修一「うとフットパス協会」
〈交流・農泊〉..... 25

20 早川 博秋「農事組合法人鶴喰なの花村」
〈農業・コミュニティ〉..... 26

「熊本むらづくり人材育成塾」とは?



「熊本むらづくり人材育成塾」は、県内の意欲ある農業者や農山漁村地域における多彩なむらづくり活動を展開する方々を対象に、さまざまな研修を実施しています。平成25年から毎年多くの方々にご参加いただき、のべ参加者数も1500名を超えました。

毎年テーマを変えながら、県内外から実践的な講師の方を招いてお話を伺い、九州各所の先進地の視察に向くなど、さまざまな取り組みを進めてきました。さらに、県内でむらづくり活動に取り組む方が一同に集まる場として、その場でコラボレーションが生まれることもあり、同じ志を持つ仲間を見つける場としても活用していただいています。

「熊本むらづくり人材コミュニティ」とは?



この度、「熊本むらづくり人材コミュニティ」を立ち上げました。過去に「熊本むらづくり人材育成塾」を受講された方や、講師として登壇していただいた方などを中心に、その後の情報交換を行うための場です。

特設ホームページおよびFacebook(フェイスブック)のグループページがあり、ご自身の取組みを告知したり、サポートをお願いする仲間を見つれたりなど、活用方法は自由です。特設ホームページでは、この事例集と連動し、過去の受講生の取材記事も定期的に更新していきます。ぜひ、ご活用ください。

[HP] <https://kumuu.site>
[FB] <https://www.facebook.com/groups/778869552196257>

熊本むらづくりのための 4つのPoint

長年、地域活性化に取り組み、熊本の現状にも詳しい
お二人に、むらづくりのポイントを聞きました。

point 1

まずは信用を得よう！
次に信頼に繋げよう！

私はこの20年間いろいろな町村や財団法人などで地域振興の仕事に携わってきました。

友人も同級生も親戚もない土地で働くことは、なかなか大変なことです。特に地域振興としてむらづくりを行うには、まずは地域の人たちの信頼を得ることが重要です。「○○さんがすることなら……」とってもらえるまで、真摯(しんし)に地域の問題を一緒に取組む姿勢を示すことだと思います。

よそ者を受け入れるまでには時間がかかります。地域の方たちは、信用できるかどうかをじっくり観察します。一度信用してもらえたと次には信頼に変わり、いろいろなことがうまく運ぶようになると思います。

point 2

成功体験を
積み重ねること

小さな成功体験を持つことが第一歩です。「絵に描いた餅では、モチベーションが下がるばかりです。

数年前に勤めていた町のある集落で聞き取りをしたところ、交場の仕事が好き！加工品づくりがしたい。将来子どもたちが残れるようなむらづくりにつなげたいという花農家の切なる声を耳にしました。そこで課題を整理できる専門家や加工品の指導者などに参集いただき、生まれたのが花のドレッシング。花でドレッシングができるという小さな成功体験が、後々地域おこし協力隊などの知恵の輪ネットワークへと伝わり、今やふるさと納税の返礼品に選ばれるまでになっています。

小さな成功体験を積み重ねることが、いかにむらづくりに重要であるかといえる事例です。

point 3

たくさん学び
上手に真似よう！

全国では地方創生の名のもとに多くの事例があります。少し調べるとご自身が行いたいことや感じている課題解決に似た取り組みや参考になるものがあると思います。

しかし他地域の事例をモノマネして持つだけでは根付きません。大事なものは「本質を捉えて真似ること」です。その事例が行う課題解決は何なのか？利用する顧客はどんな価値を感じているのか？を理解し、自分たちの地域の課題や顧客の感じる価値を定義して、「何のためにこの取り組みを行うのか」を明確にすることが大事です。

今はSNSで直接つながることもできる時代です。気になった事例があれば直接連絡をしてみてもよいでしょう。本質を捉えて自分の地域に合わせた方法を考えるとうまいと思います。

point 4

継続するための
組織づくり

私たちはアイデアパートナーズは「地域主導・地域に根ざした自立型ビジネスを实践・支援する」ことを会社のフィロソフィ(根幹)にしています。私もこれまでDMO(観光地域づくり法人)の必要性を発信してきました。

皆さんが行いたいことを継続するには、補助金に頼らない自立したビジネスの立ち上げが必要になり、組織が必要になります。何を行いたい組織なのかビジョンを明確にし、地域の方々の巻き込み工夫が必要です。そして「誰がお客さまなのか」を念頭において取り組みを進めてください。

自分たちは何を行いたい組織なのか、そのお客さまは、どこにいて、どんな人で、ニーズは何なのか。それを明確にするだけでも今までと違ったアイデアや手法が見つかるはずです。



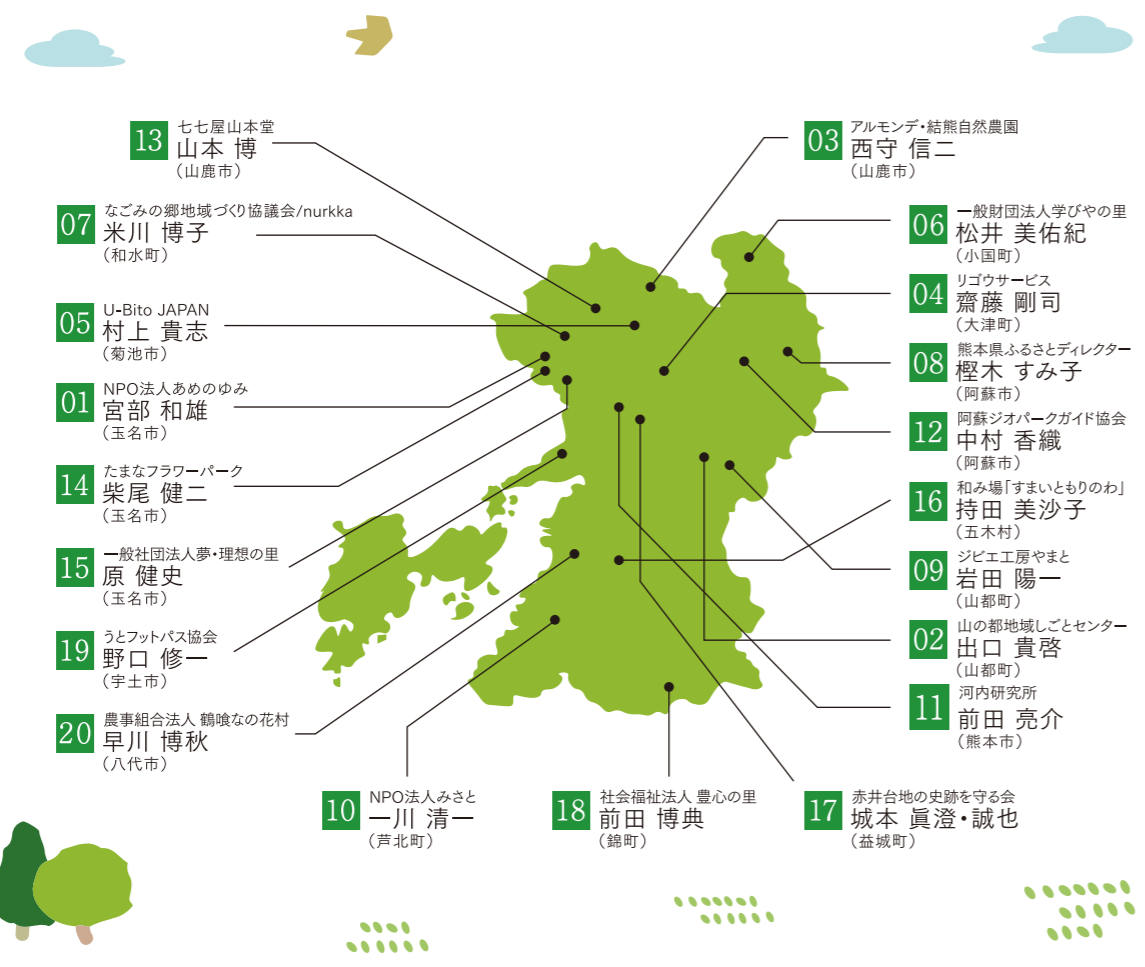
井手 修身
[アイデアパートナーズ株式会社代表取締役]

熊本大学卒業。リクルートに入社して以来、東京を拠点に観光振興、まちづくり、UIターン人材誘致等の領域で、全国数多くのプロデュースを手掛け実績を上げる。2006年に「人材×マーケティング」で観光・集客事業の再生を行うアイデアパートナーズ株式会社を起業し現職。九州を中心に旅館・ホテルの再生支援と地域活性化のプランニングに携わる。南阿蘇村ITの推進に伴う専門学校の設立(2022年4月開校)などで地元熊本にも新たな波を起こし続けている。



江藤 訓重
[阿蘇地域振興デザインセンター事務局長]

小国町生まれ。大学卒業後、農林業の傍ら、小国のタウン誌「とっばす」を主宰。おぐにみらい塾長を経て、研修交流施設「木魂館」館長、国土交通省地域アドバイザーや熊本ツーリズムコンソーシアム会長などを歴任。現在は、阿蘇地域振興デザインセンター事務局長。



熊本むらづくり

フロントランナー Case Examples!!

県内の農山漁村地域でむらづくり活動に取り組む人を対象に、多彩なテーマで開催されてきた「熊本むらづくり人材育成塾」。ここで学んだ多くの人たちが、それぞれの地域で活躍しています。現在はどんな活動に取り組んでいるのか、塾での学びや出会いについて、むらづくり塾の先輩たちに聞きました。



06

05

Front runner case examples!!



02

新しい価値観を学びながら
地域に融合していく期待の若手

出口 貴啓
Takahiro Deguchi
(山都町)

profile

山都町地域おこし協力隊。熊本県立
大学大学院に所属し社会学などを研究。山都町のファンづくりに向け、大学生
の受け入れや高校魅力化などを実施。
連絡先：山の都地域しごとセンター
0967-72-9111

【受講年度】
平成27年度/令和2年度
【受講した主な講座】
◎地域のこれまでにあるものを
活かし、新たな価値を生み出す
◎多拠点の働き方と暮らし方で地
域にユニークな仕掛けを作る



これまで「むらづくり活動」は？
地域おこし協力隊として、山都のファンづくりに軸に、他地域の高校生が山都町に留学する「地域みらい留学」のサポートを行ったり、空き家バンクの運営サポートや移住相談対応などを行ったりしています。今も大学院に所属しているので、山都町のジビエや野菜を学食で提供する取り組みなども行っています。

地元は人吉産地です。地域に関わることをし
たくて、大学で社会学を専攻しました。山都町
は自主的な取り組みが活発で、「山都でしか」
という若手農家中心のまちづくりに取り組む
株式会社があったり、町が人材育成塾を
主催したりと、以前から魅力的に感じていて、
地域おこし協力隊になりました。

地域おこし協力隊として

高校生の山都町への留学や

移住定住促進に取り組む

本塾での学びが役立ったことは？
モチベーションが上がりました。本塾で具体的な事例を学んでから、「自分が関わっている地域では、どうしたらいいか？」と考えるようになりました。

Message

これからむらづくり活動を
考えている方へ

地域の方々に対してリスペクトが大事だと思います。一方向的に「こんなことが課題・こんなことをやりましょう」では受け入れてもらえません。地元の人が守ってきたものと新しい価値観を、どう掛け合わせるかが大事だと思います。

Front runner case examples!!



01

アフターコロナは
都市を捨ててよ里山で生きよ

宮部 和雄
Kazuo Miyabe
(玉名市)

profile

2011年に東京から移住し、自然農法による米
作りを中心に、自立したライフスタイルを追求し
ながらNPO法人あめのゆみを設立。地方創
生のかぎとして都市から地方への移住を促す。
連絡先：NPO法人あめのゆみ
080-9562-1087

【受講年度】
平成26年度
【受講した主な講座】
◎文化となりわいを生かした
景観・地域づくり



これまで「むらづくり活動」は？
循環型社会を目指し
東京から移住
日々の活動を発信
東京では個人でリラクゼーションサロン
を10年ほど運営していました。東日本大震災
を機に「消費社会ではなく自分たちで創り
出す循環型社会」を実現したいと思い、U
ターン移住しました。自然の中で学びながら
同じような考えの方々とつながれるよう、
今後とも日々の暮らしや取り組みを発信して
いきたいと考えています。

これまで「むらづくり活動」は？
循環型社会を目指し
東京から移住
日々の活動を発信
玉名の街中では古民家をDIY改修した
コミュニティサロン「だんごどころ」を展開
してきましたが、熊本地震を機に閉所しま
した。移住仲間と始めた土日のみの「田んぼ
カフェ」も今年で10周年を迎え、活動の大切
な窓口となっています。

今後、取り組みたいことは？
障害者や高齢者の
地域社会との接点をつくり
積極的に情報発信

熊本地震後は災害支援や福祉にも力を
入れ、地元NPOと「よかたま市民ネット
ワーク」を結成し、いまま被災者や重度障害者
の支援を継続しています。個人的にはヘルパー
の資格も取得して仮設住宅を中心に、引きこ
もりがちな方々を誘って映画鑑賞会などを企
画してきました。また新たな情報発信の試みと
して、数年前から熊本の文芸季刊誌「道標」に
寄稿を始め、コロナ発生後は新たな社会づくり
に向けた農政改革の提言を連載しています。

本塾での学びが役立ったことは？
活動の実践者や
参加者との交流が
一歩を踏み出す後押しに
実際は里山でのさまざまな取り組みを実践
されている方々との何うことで、自分の中
にひとつの指針ができたことが大きかったで
す。特に目立つわけでもなく淡々と実践されて
いる方々が既にあるということが知れて、自分
も力を抜いて自然体で実行に移していこうとい
う心の整理ができました。

また地域をより良く変えていこうと前向きに
考えている多くの参加者と出会うことで、何か
肚(はら)の底から奮い立つような元気をいただ
き、自分の後押しにもなった実感があります。

Message

これからむらづくり活動を
考えている方へ

助成金ありきでスタートしないことが大事。まずは創意工夫でできることから始め、本当に必要な分を見極めるのが大事だと思います。

Front runner case examples!!



04

お世話になった大津町・熊本県で
笑顔を見られることに関わりたい

齋藤 剛司
Takashi Saito
(大津町)

profile

元大津町地域おこし協力隊。「継業」をテーマに県立大津高等学校内の売店を運営するリゴウサービスを創業し、特産品のからいもの販売や流通にも取り組む。
連絡先：合同会社リゴウサービス
050-5327-5400

- 【受講年度】平成27年度
- 【受講した主な講座】
 - ◎地域資源を生かしたマーケットによるまちづくり戦略
 - ◎地域のこれまでにあるものを活かし、新たな価値を生み出す

これまでのむらづくり活動は？

地域おこし協力隊で 震災復興に取り組んだ後 事業継承の道へ

地域おこし協力隊の時には、特産品をテーマに、地元食材を活用したデザインショーや、えごま油の開発などを進めていました。しかし、協力隊の任期中に熊本地震があり、より本来の意味での町おこしの方法を模索しながら取り組みました。特産品を詰め合わせた応援セットの販売や、熊本地震復興中間支援組織「カススル熊本」の設立などを通して、震災復興にも力を注ぎました。協力隊の終了後、事業継承を行う「継業」の一端を担いたいと思い、現在は大津高校で売店を運営しています。



03

自然農のスタイルを楽しみながら
実践し広めていきたい

西守 信二
Shinji Nishimori
(山鹿市)

profile

福岡県出身。水処理関係のエンジニアを経て「農的暮らし」を実現したいと55歳の時に山鹿に移住。自然農を教える勉強会などを主催している。
連絡先：アルモンテ・結熊自然農園
Facebookより上記検索で連絡

- 【受講年度】平成30年度 / 令和1年度 / 令和2年度
- 【受講した主な講座】
 - ◎安心院町での現地研修
 - ◎ヒトひとり暮らし価値

これまでのむらづくり活動は？

エンジニアから転身 山鹿へ移住し、自然農の 勉強会や炭焼きに取り組む

以前は全国転動もあるエンジニアとして仕事をしていました。移住のキッカケは、妻からの「この暮らし変じゃないか」という言葉でした。自分たちで米や野菜を作りながら暮らしたいと考えるようになり、奈良県の「赤目自然農塾」に通い、移住先を考えていました。今の家と畑の紹介があり、山鹿へ移住。集落の方々からも受け入れてもらい、少しずつできることを増やしてきました。自分が学んだ自然農について教える勉強会を開き、炭焼きも始めました。また、集落を訪れた人が休憩できるカフェを2021年3月にオープンしました。

Front runner case examples!!



今後、取り組みたいことは？

地域にカフェをオープン 山の再生や民泊など 新たな挑戦も視野に

田畑の勉強会を始めてから、地元の人だけではなく、福岡など県外からも参加者が増えてきました。すると休憩するときの場所がほしいという声が出るようになり、この度カフェを併設することになりました。さらには泊まってみたいという声もあるため、将来は民泊ができるようにしようと考えています。地元の人からの紹介で山も購入しました。しいたけの栽培や炭焼きなどを続けながら、今後は「山の再生」を進めていくことができたらと考えています。

本塾での学びが役立ったことは？

安心院町での農泊研修で 体感したことが 今の取り組みにつながる

大分県宇佐市安心院町の農泊に実際に泊まる研修が、一番印象に残っています。やはり現地に行く講座だけでは伝わってこない現地の空気感や、おもてなしの姿勢などを感じることができました。また安心院の方から「普段の暮らしを体験として提供しているだけだから」という言葉を聞き、「それなら自分でもできるかもしれない」と思い、今の取り組みにつながるようになりました。その時に出会った講師の方とは今も交流があります。お互いの家を行き来したり、進捗を相談しあったりと、縁が広がっています。

今後、取り組みたいことは？

大津町や熊本を元気に！ 特産のからいも販売や 協力隊のサポートも

気持ちは地域おこし協力隊のころと変わっていません。自分を受け入れてくれた大津町や熊本が元気になる、人々の笑顔が見られることに関わりたいと考えています。現在、大津町の特産である「からいも(さつまいも)」を、卸青果商社を通じて九州外で販売する仕組みづくりを進めています。引き続き拡大して行くつもりです。また、これから熊本県に来る協力隊のサポートを、今後も続けていきたいと考えています。

本塾での学びが役立ったことは？

出会いや学びが 地域での取り組みに 生きてくる

平成28年熊本地震の時に地域の女性から「温泉に行きたい」と相談がありました。そこで当時本塾で一緒だった黒川温泉地域で働く同じ協力隊の方に連絡を取り、大津町から黒川温泉まで直行バスを走らせることができました。出会ったその場で一緒に何かを行うということではなく、いろんな参加者と出会い、その方々と必要な時に化学反応が起こるのだと実感しました。個人ではお会いすることができないような講師から、リアルなお話を聞くことができ、参考になりました。地域の方々に、すぐに学びをフィールドバックできたこともよかったです。

Message
これからむらづくり活動を考えている方へ
「何をしていいのかわからない」という人は、本塾など学びの場に行ってみるのがいいと思います。学びながら自分が気づかなかった方向性に気づき、少しずつ自分の中の火が大きくなってくると思います。

Message
これからむらづくり活動を考えている方へ
まずは地域の人に信頼してもらうことが大事です。区役を担ったりすることもいいと思います。さらには「こんなことがしたい」と言いまくることも大事です。いろんな方がつないでくれるキッカケになると思います。

Front runner case examples!!



06

地域の黒子のよう
存在になりたい

松井 美佑紀
Mitsuaki Matsui
(小国町)

profile

元小国町地域おこし協力隊、一般財団法人学びの里職員。小国町の移住相談窓口にて移住相談を担当し、6年間で約120名の移住をサポート。
連絡先：一般財団法人学びの里
0967-46-5560

- 【受講年度】平成27年度
- 【受講した主な講座】
 - ◎食資源を生かした交流によるまちづくり
 - ◎地域のこれまでにあるものを活かし、新たな価値を生み出す

これまでのむらづくり活動は？

協力隊への応募を機に移住の相談窓口の開設に携わり、地域イベントを企画

大学生のころからまちづくりに興味があり、学びの里で開催された「九州ツーリズム大学」に参加しました。そこで地元の人々と出会い、阿蘇・小国町の景色に魅了されました。社会人になってからもたびたび訪れていましたが、協力隊への応募を機に移住を決心。

「私自身がこんなことをしたい」という思いより、「地域の人々が喜んでくださること」こそが実現したいという気持ちがあります。地域の人々が喜んでくださることこそが実現したいという気持ちがあります。地域の人々が喜んでくださることこそが実現したいという気持ちがあります。



05

人と人、企業と企業がつながり
生み出された価値を世界へ発信

村上 貴志
Takashi Murakami
(菊池市)

profile

元菊池市地域おこし協力隊。くまもと地域おこし協力隊ネットワーク事務局、人と人、企業をつなぐU-Bito JAPAN株式会社を創業し熊本県の魅力を世界へ発信。
連絡先：U-Bito JAPAN株式会社
090-4900-4841

- 【受講年度】平成27年度
- 【受講した主な講座】
 - ◎地域の分析から、分析データに基づいた情報発信戦略
 - ◎観光、交流から移住・定住へ

これまでのむらづくり活動は？

地域おこし協力隊で活動後会社を設立し地域の団体を支援

もともと会社員でしたが、2015年から菊池市で地域おこし協力隊になりました。当時10名いた協力隊のメンバーと共に、移住定住の促進を目的に、空き家の調査や紹介、移住相談会の運営などに取り組んでいました。

協力隊卒業と同時に会社を設立しました。農業生産者のIT化の推進や、地域プロデュース事業として、さまざまな団体の事務局となって支援を行っています。実現したことは「人と人、企業と企業がつながり、新たな事業を生み、世界中の地域社会に貢献すること」です。

Front runner case examples!!



今後、取り組みたいことは？

協力隊をサポートし人と人が集まる場所をつくりたい

設立した会社では、さまざまな団体の事務局を担っています。「くまもと地域おこし協力隊ネットワーク」もその一つです。今後は県内の協力隊の相談窓口や、隊員同士の横のつながりをつくるお手伝いができたらと考えています。

また、菊池市で「ワーキングスペース」をつくりたいと考えています。コロナ禍でさまざまな場所で働く選択ができるようになってきました。そこで、人と人が集まる場所を一つ持つことができたらと考えています。

本塾での学びが役立ったことは？

むらづくりの実践者からリアルな話を聞き自分の道が見えてきた

受講しはじめたころの僕は、まだ自分が何をしたいのかわからず、主に情報収集のために参加していました。いろんな地域に行き、さまざまなむらづくりの実践者からリアルなお話を聞くことができ、少しずつ自分がしたいことが見えてきたのが良かったです。県内在住の講師の方とは、その後のつながりもできました。今の仕事でも少し関わらせていただいている方もいて、人とのつながりをつくるきっかけにもなりました。

今後、取り組みたいことは？

地域のみなさんと共にわくわくするような新しい企画を作り上げたい

以前、杖立温泉にある足湯を活用した「足湯カフェ」を開催しましたが、観光客の方だけでなく、地域の方にも好評でした。なかなかイベントの企画・開催については判断が難しい状況ですが、足湯カフェの良さを残しながら、新たな形での再開を模索しています。

地域のみなさんと一緒にわくわくできることを考え、実現していきたいです。

本塾での学びが役立ったことは？

地域づくりに取り組む人々と分野を越えて知り合うことができる場

協力隊に着任したばかりのころは、熊本県内で地域づくり活動を行っている人はたくさんいるものの、バラバラに活動しているのだと思っていました。でも、本塾やさまざまな会などでお会いした人が「知り合いの知り合い」だったということも多く、横のつながりがあり、ネットワークができていくことに気づきました。

他分野の方とも知り合うことができる場があるのは、すてきなことだと思います。

Message

これからむらづくり活動を考えている方へ

簡単なことに聞こえるかもしれませんが、「挨拶」をすることが大事だと思います。挨拶をしっかりとすることで、いろんなことがスムーズにいき、自分が実現したいこともできるようになると思います。

Message

これからむらづくり活動を考えている方へ

「学んだ後にすぐ実践」が大事だと思います。学ぶだけでは形にもならず忘れてしまうので、学んだ後にはすぐに何かの形にしてみる事が重要だと思います。下手でもいいので、まず形にしてみる事が必要だと思います。

Front runner case examples!!



08

荒れた里山を再生し
宿泊もできる森林公園へ

榎木 すみ子
Suniko Kashiwa
(阿蘇市)

profile

熊本県ふるさとディレクター。阿蘇市波野在住。建築家として里山の再生を通じて民泊、フットパスの立ち上げを進める。

連絡先：熊本県ふるさとディレクター
080-9242-8841

【受講年度】
平成30年度/令和元年度/
令和2年度
【受講した主な講座】
◎私が目指す農村ビジネス
◎定年帰農から始めた限界集落が挑戦する未来のむらづくり



出身地は、今住んでいる阿蘇市波野です。以前は大阪を拠点に店舗の設計や施工・企画までを行う建築家として働いていました。働いているころもずっと、仕事が一段落したら地元に戻ると決めていて、60歳になるころに地元に戻りました。子どものころに畑だったのに、荒れてしまっている所もあります。子どものころに遊んでいた里山を取り戻したいと考えて、自ら10ヘクタールの山を購入しました。植林を行うなど、日々山の手入れを行っています。ゆくゆくはきれいな森林公園のような感じがいいなと考えています。

これまでのむらづくり活動は？
大阪から地元に戻り
荒れた山を手入れし
里山の再生に挑む

参加者の方々も精力的な方が多くて、非常に面白い。目標が大きい方もいます。が、地方の事業の進め方などがよく分かる講座だと思います。補助金を中心に考えすぎてはいけないなど講師の方のお話が、自分も経験してその通りだと感じるところです。

本塾での学びが役立ったことは？
精力的な参加者が多く
地方での事業の
進め方がよく分かる

Message

これからむらづくり活動を
考えている方へ

地域に溶け込むということが最も大事だと思います。よそ者はよそ者なので、積極的に地区の行事に参加して、「いらんことを言わない」ことが必要です。買える土地があれば買うこともおすすめです。それが永住するという意思表示にもなります。

Front runner case examples!!



07

大豆とデザインのチカラで
地域の人々を巻き込む

米川 博子
Hiroko Yonekawa
(和水町)

profile

元和水町地域おこし協力隊。くまもと地域おこし協力隊ネットワーク監事。現在はフリーランス(nurkka)で大豆コーヒーの企画販売や、デザイン業務を実施。

連絡先：くまもとの郷地域づくり協議会
/nurkka

【受講年度】
平成28年度
【受講した主な講座】
◎ひまわり亭での現地研修
◎体験型観光の魅力とUekiも
んマルシェを通して



出身は玉名ですが、20代は東京で商品販売の仕事をしていました。50歳になった自分を想像すると、このまま東京で暮らしているイメージがなく、畑が広がっている田舎で過ごしたいと思ったのがUターンのきっかけです。和水町の地域おこし協力隊になることができ、くまもとの郷高野地域づくり協議会が進めていた大豆コーヒーづくりに参加しました。耕作放棄地対策として手間の少ない大豆づくりを始め、活動資金を得るためにコーヒー販売を始めたところ、徐々に人気が出て、近隣の道の駅で継続的に買っていただけの商品に育ちました。ノンカフェインなので、妊婦の方や贈り物に喜ばれているよううれしいです。

これまでのむらづくり活動は？
東京からUターン
大豆を使った
コーヒーづくりに挑戦

今後、取り組みたいことは？
デザインの力で
町のブランディングや
地域の人の応援をしたい

協力隊を卒業してからも、引き続き大豆コーヒーの企画販売を行っています。ふるさと納税の返礼品も始まったので、大豆の生産量拡大に取り組みしていきたいです。最近はいベントに出店できていないので、もっと出店したいと思っています。また、和水町などを中心に、徐々にデザインの仕事もいただけるようになってきたので、仕事の幅を広げていきたいです。デザイン力で商品ブランディングを行ったり、地域のやる気やアイデアがある方を応援したり、そんな仕事ができればと考えています。ゆくゆくは町全体のブランディングにも関わることができたらうれしいです。

本塾での学びが役立ったことは？
他の地区の協力隊や
さまざまな人の話を聞き
自分の方向性が見つかる

受講している時に会った、他の地区の協力隊と仲良くなれたのは良かったです。それぞれの地区のイベントに、相互に出店したこともあります。同じような方向に向かっていく人との出会いは、心強かったです。また、いろいろな方の苦労話を聞いたことで、自分たちだけじゃないんだと思えました。自分の方向性を見つけることができたと思います。

Message

これからむらづくり活動を
考えている方へ

まずは自分が恥ずかしくない存在になることが大事だと思います。特に協力隊としては自分自身が商品でもあり、地区の人にサポートしていただく必要もあるので、たくさんの方とコミュニケーションを取ることも大切だと思います。

Front runner case examples!!



10

困っている人が見えたとときに
新たな事業が立ち上がる

一川 清一
Shinichi Ichikawa
(芦北町)

profile

NPO法人みさと理事長。介護保険事業として老人ホーム、訪問介護を行いながら、地域の課題解決を実現。

連絡先：NPO法人 みさと
0966-84-0916

【受講年度】
平成27年度
【受講した主な講座】
◎地域を元気にする魔法“フットパス”

これまでのむらづくり活動は？

NPO法人で
高齢者の支援や
地域の課題解決に貢献

芦北町の山間部の高齢者は買い物などが難しく、何か支援できないかというところがたつたのですが、経営として実現が難しいと言われました。「ならば自分で」と思い、30年前に自衛隊を辞めて活動を始めたのがきっかけです。

今は有料老人ホームやデイサービス、訪問介護なども手掛けています。在宅の支援事業の他に、NPO法人で、地域の見守りパトロールや炭作り体験を行ったり、葦北三十三観音を巡る案内を行ったりしています。NPOでは地域の方から困りごとの声が上がってきたら、皆で知恵を出しながら、実現できる手段を考えて実施してきました。



09

ジビエの流通を通じて
新たな価値を地域に循環したい

岩田 陽一
Yoichi Iwata
(山都町)

profile

ジビエ工房やまと施設長。地域に根ざした会社で、新しい働き口づくりや住みやすい町づくりに貢献。

連絡先：ジビエ工房やまと
0967-73-4429

【受講年度】
平成27年度
【受講した主な講座】
◎一次産業をカッコよくて、感動があったって、稼げる3K産業にする

これまでのむらづくり活動は？

地元への貢献を目指し
ジビエの工房を立ち上げ
商品化に取り組む

荒尾でサラリーマンをしていましたが、毎日働いて家に帰る日々に少し疑問を感じたのと、地元山都町が衰退していくのを見て田舎に戻って貢献したいと思ったのが、Uターンのきっかけです。地方で新しい働き口をつくることや、そのために住みやすい町をつくることに貢献できたらと考えています。

2017年からジビエに関わる仕事を始めました。山都町では1年に500頭以上のシカやイノシシが処分され埋設されていました。少しでも商品として流通させるべく、ジビエ工房やまとの立ち上げから関わりました。今では約300人の猟師の登録があり、九州内を中心に徐々に販路も拡大しているところです。

Front runner case examples!!



今後、取り組みたいことは？

販路を拡大し
新しいことにも挑戦
自分の経験も伝えたい

これまで積極的な営業活動はあまり行っていなかったのですが、これから関東や関西なども含めて販路を拡大していきたいです。そこで得た販路のネットワークなどを活用して、新しいこともできたらと考えています。都市に集まるニーズを、地方で拾っていくような取り組みを進められたらと思います。

本塾での学びが役立ったことは？

参加者から刺激を受け
考え方が変わったと実感
自身の活動にも役立つ

参加してから考え方が変わった実感があります。いろんな方や講師が来られるので大変刺激になります。自分以外の人の考え方を知れたことは大きかったです。また、お話を聞いているうちに、自分の中で成功パターンや失敗パターンなどが見えてきたことで、考えを実行に移すときにも役に立っていると思います。

今後、取り組みたいことは？

コミュニティを大切に
子どものための図書館や
古民家を使った拠点準備

豪雨災害の影響を受けて、今まで関わってきたこの町のコミュニティの大切さをより感じるようになりました。孤立集落の支援なども行ってきましたが、今後は復旧から復興への取り組みが大事だと考えています。そこで、子どもたちを対象とした図書館づくりや、食を通じたつながりをつくる事業を始めました。

古民家を取得して、高校生が実験店舗を運営したり、食事処として活用してもらったりできる、複合的な拠点の開設に向けて準備中です。ゆくゆくはコワーキングスペースとして、経営塾の開催なども実現したいです。

困っている人が見えたとときに事業が立ち上がるという、今の形を続けていきたいと思っています。

本塾での学びが役立ったことは？

同じ思いを持つ
たくさんの方の異端児と出会い
つながることができる

地域では私みたいな人間は異端児です。でも、本塾にはそんな異端児がたくさん集まっています。「自分だけではないんだ」と思えたことが一番良かったです。同じ思いの人がいることが支えになりますし、その後もつながりを持ち、協力いただいている方もいます。

Message
これからむらづくり活動を
考えている方へ
「やればできる!」が大事です。本当に自分の信念を持って続けていたら、だいたいことは実現できます。人間関係なども大事ですが、「やればできる」の精神が大事だと思います。

Message
これからむらづくり活動を
考えている方へ
何事も経験!という考え方が大事だと思います。やってみないと良いも悪いも判断ができないので、はじめに答えを考えるのではなく、まずは小さくてもよいので、やってみようという姿勢が大切だと思います。

Front runner case examples!!



12

ガイドとライター視点を持つ
阿蘇のエンターテイナーガイド

中村 香織
Kaori Nakamura
(阿蘇市)

profile

阿蘇ジオパークガイド協会理事。体験コンテンツの造成やガイドのクオリティ向上、体制の構築に注力。

連絡先：阿蘇ジオパークガイド協会
0967-34-2089

【受講年度】
平成26年度/平成27年度/
平成28年度
【受講した主な講座】
◎地域を元気にする魔法“フットパス”

これまでのむらづくり活動は？

火山ガイド歴16年
ライターの視点を取り入れ
阿蘇の魅力を発信

阿蘇の火山ガイドである阿蘇インテーパーター養成講座の一期生として2005年から学び始めました。本業はライターで、ガイドは有償ボランティアですが、今ではガイド歴16年目になりました。私が取材した記事を見せて、お店紹介などもしています。ガイドという主観的視点とライターという客観的視点の両方向から阿蘇の魅力を探え、発信し続けることができたと思います。

ガイド団体として決まった手法はありません。しかし私は、ただの説明で終わらず、鍋を使ったカルデラの説明や紙芝居などを取り入れ、子どもも大人も楽しめるエンターテインメント性のあるガイドを心がけています。



11

枠にとらわれず人柄が見える
地域の情報発信を目指す

前田 亮介
Ryosuke Maeda
(熊本市)

profile

株式会社河内研究所代表取締役。東京から帰郷後、地域情報発信サイト「肥後ジャーナル」を開設。その後、地域に寄り添った情報発信を目指し同社を設立。
連絡先：株式会社河内研究所
096-288-1550

【受講年度】
平成27年度
【受講した主な講座】
◎むらづくりのための編集とデザイン

これまでのむらづくり活動は？

「肥後ジャーナル」で
地域の情報を発信
広告代理店も設立

今では多くの人に見てもらえるようになった「肥後ジャーナル」ですが、最初の1年半ほどは、これ一本で食べていけるほど収入はなく、アルバイトで食いつないでいたくらいです。そんな中でも「1日2本の記事を書ける」ことだけは続けてきた結果、周りの方々の助けもあり、PV数（ページの閲覧数）も増えていきました。
その後、出稿依頼が増えてくると、情報を掲載するだけでなく、魅力的に伝えるためのアドバイスもするようになってきました。そうした経験から、もつと熊本地域に密着した広告代理店の必要性を感じ、株式会社河内研究所を立ち上げました。

Front runner case examples!!



今後、取り組みたいことは？

広告収入に頼りすぎず
より地域に密着した
情報発信に挑戦

かなり挑戦的な取り組みになると思うのですが、広告収入に頼りすぎず、より「肥後ジャーナル」らしさを高め、強いメッセージ性を持ったメディアにしていきたいと考えています。

情報媒体として広告収入を減らすことは既存の事業モデルから逆行するよう見えるかもしれませんが、発信者の思いを明確にし、より地域に密着したかたちで、「肥後ジャーナル」の伝えたいことの純度を高めていきます。そうすることで、メディアとしての方法以外でも深く地域の魅力を発信していきたいと考えています。

本塾での学びが役立ったことは？

地域のために挑戦する
参加者の姿に刺激を受け
行動が大事だと再認識

実は講座を受けたり、人に会ったりすることは苦手なのですが、ちょうど「肥後ジャーナル」が伸び悩んでいた時期だったので、なにかしらつかんで帰れるものがあるんじゃないかと本塾に参加したんです。

講座の内容も良かったのですが、そこでの出会いも印象的でした。自分よりも一回りも二回りも年上の方が、退職された後も、地域のために挑戦している姿に刺激を受け、行動することの大事さを再認識させられました。

今後、取り組みたいことは？

進化を目指し
オンラインツアーや
英語配信を企画

これまでに、熊本地震や噴火、新型コロナウイルスの流行により、阿蘇を訪れる人が激減するような事態にたびたび直面してきました。そこで、俯瞰的視点で今後を見据え、臨機応変に進化していきたいと思っています。

その取り組みの一つとして、2020年10月にオンラインツアーのチームを立ち上げました。通常のルートを案内するだけでなく、普段は入れないような場所を案内するなど、オンラインならではのコンテンツとして磨き上げていけたら、と考えています。

将来的には、英語での配信も行うことで、アフターコロナの海外からの誘客にもつながりたいです。

本塾での学びが役立ったことは？

ガイド協会と
深く関わる契機となり
阿蘇の魅力も客観視できた

本塾に通うまでは、阿蘇ジオパークガイド協会の「2ガイド」だったのですが、本塾で知り合った方からのネットワークや支援をきっかけに、ガイド協会理事となり、深く関われるようになりました。

また、違うエリアや違う活動をしている人たちと交流することで、改めて自分の活動や阿蘇の魅力について再認識できたと思います。

Message
これからむらづくり活動を考えている方へ
自分にとって当たり前で価値がないと思っているものでも、外から見ると魅力的なものはたくさんあります。地元に近いほど、地域の良さに気づきにくくなると思います。たくさんの人と交流し、違った視点から“人の財産”“地域の財産”を見つけてほしいと思います。

かなり挑戦的な取り組みになると思うのですが、広告収入に頼りすぎず、より「肥後ジャーナル」らしさを高め、強いメッセージ性を持ったメディアにしていきたいと考えています。

Message
これからむらづくり活動を考えている方へ
私自身の経験からですが、苦手なこと、自分が遠ざけていることほど、挑戦したほうが道が開ける場合もあると思います。少しでも、地域で何ができるか悩んだり、考えたりしている人は、講師や参加者などいろんな人に来てみてはいかがでしょうか？

Front runner case examples!!



以前は弁当店を営み、一心不乱に働いて... 地域への集客ばかり考えすぎて、「自分の楽しみ」が少なくなると、続きません。

これまでのむらづくり活動は？ 地域への集客ばかり考えすぎて、「自分の楽しみ」が少なくなると、続きません。

14

花いっぱい地域の情報発信拠点をめざして

柴尾 健二 (玉名市)

profile

玉名・横島地域への誘客の核となる情報発信拠点として、観光農園をつくりたいと一念発起し、念願の「たまなフラワーパーク」をオープン。

連絡先：たまなフラワーパーク 0968-51-2727

- 【受講年度】令和元年度
【受講した主な講座】◎九州の農泊・民泊・インパウンドのトレンドとニーズ
◎外国人も引き寄せる農家民泊と、お客様とのふれあいの楽しさ

Front runner case examples!!



千葉から山鹿に来て、10年くらい山鹿もてなしたいとして、「おもてなし子ども公演」など、いろいろな活動をしてきました。...

13

豊前街道未来創造 山鹿の伝道師

山本 博 (山鹿市)

profile

「山鹿もてなしたい」「菊池川流域の恵み」体験協議会の活動を経て、山鹿を元気にするべく、「山鹿豊前街道「七七屋山本堂」を立ち上げる。

連絡先：七七屋山本堂 090-8947-4950

- 【受講年度】平成30年度/令和元年度/令和2年度
【受講した主な講座】◎点では無く面ですぐ地域づくり
◎ローカルに根ざしたビジネスの創造と立ち上げの手法

今後、取り組みたいことは？

交流の場としても活用 地域の魅力に触れ 地元への愛着が生まれる場に

山鹿の情報発信の拠点として立ち上げた「七七屋山本堂」を核として、情報発信を行うだけでなく、地域の方々の交流の場としての活用も目指しています。

本塾での学びが役立ったことは？

知らなかった世界を知り 自分のアイデアを整理 夢の実現が見えてきた

他の地域で活動されている方や講師の方々の話、事例に触れ、自分の知らなかった世界の話を知ることができました。

Message

これからむらづくり活動を考えている方へ

地域の活動においては「地域に来てくれる人の楽しみ」と「自分の楽しみ」のバランスが重要だと思います。

Message

これからむらづくり活動を考えている方へ

地域に関わる活動を始めると、はじめはぼんやりとしているかもしれませんが、たくさんの人と出会い、こんな地域にしたいという明確な思いが固まってくると、おもしろい地域をつくるという夢が広がってくると思います。

Front runner case examples!!



16

20歳で出会った五木村
五木愛あふれる建築士

持田 美沙子

Misako Mochida
(五木村)

profile

元五木村建設課・農林課職員。大津エリアで地域住民や女性専門職同士の交流の場「すまいとりのわ」をつくるべく、立ち上げに向けて奔走中。
連絡先：和み場「すまいとりのわ」
sumai.mori.wa@gmail.com

【受講年度】
平成27年度
【受講した主な講座】
◎一次産業をきっかけとして、感謝があつて、稼げる3K産業にする。

これまでのむらづくり活動は？

五木村職員として
木材の活用に取り組み
プランディングに貢献

これまで五木村の任期付職員として5年間、地域産材を活用した建築や、林業の普及による「森林で自立する村づくり」を目指し、さまざまな取り組みに参画してきました。

五木村は長年ダムの建設に翻弄されてきましたが、村の総面積の96%が森林で、豊かな森林資源を持っています。そこでプランディングによる需要の増加を図るべく、葉枯らし乾燥させた美しい五木の木材を使った「五木源（こきげん）住宅」の取り組みを始め、私も立ち上げから関わってきました。現在は職場が五木村の外になりましたが、今後も五木村の木材の魅力を伝えたいと考えています。



15

住民と二人三脚で
地域の宝を育む担い手

原 健史

Kenshi Hara
(玉名市)

profile

一般社団法人夢・理想の里代表として、地域コミュニティハウス「小天オレンジテラス」を立ち上げる。ペットボトルピザ体験など近隣小学校向けの出張型体験学習を実施中。
連絡先：一般社団法人夢・理想の里
0968-82-3121

【受講年度】
平成27年度 / 平成28年度
【受講した主な講座】
◎食資源を生かした交流によるまちづくり
◎まちづくりにおける仕掛け方と魅せ方

これまでのむらづくり活動は？

耕作放棄地を活用し
地域との接点が生まれる
体験型学習施設を整備

小天地区を訪れ、みかん農家の衰退に伴い耕作放棄地が増えていく様を目にし、地域の余力があるうちに新しい活動を始め、小天を知ってもらおうきっかけにしたいと考えました。地域の方々には、よそ者から見た発想でチャレンジさせてほしいと伝えましたが、すんなりとはいきませんでした。そこで、地域の活動に積極的に関わり、少しずつ信頼を得ました。500坪の耕作放棄地を活用した「小天オレンジテラス」では、みかんの剪定木を使った木育体験や、小天のフットパス、地元産の農産物を使った食育体験などを提供し、地域との接点を生み出し、地域住民と来訪者との交流のきっかけをつくることができました。

Front runner case examples!!



今後、取り組みたいことは？

県内外の中山間地域に
ノウハウを提供し
活性化をサポート

これまでの活動を通じて、小天地区のような耕作放棄地が増えつつある中山間地域が、熊本県内・県外を問わず、数多くあることがわかってきました。

そこで、地域コミュニティハウス「小天オレンジテラス」の取り組みを続けることで培った、地域資源の活用や地域住民とのネットワーク構築に関するノウハウを、他の地域にフィードバックすることを考えています。そうすることで、中山間地域の活性化のサポートをするとともに、連携性を高めていきたいと思っています。

本塾での学びが役立ったことは？

学んだことに
地域の思いや資源をプラス
地域に合った取り組みへ

小天での活動の指針とするべく、本塾に参加しました。講座を受けることで多くの事例に触れる機会があり、参考になりました。その際に注意したのは、学んだことをそのままフィードバックするのではなく、自分たちの地域の思い、資源をプラスすることで。その結果、他の地域の真似ではない、自分の地域なりの取り組みに昇華することができたと考えています。

今後、取り組みたいことは？

女性専門職と地域住民が
集う拠点をつくり
勉強会も開催したい

五木村の地域産材の魅力発信も兼ね、大津駅の周辺で地域の専門職の女性や地域の方々が集う交流施設兼建築事務所をつくりたいと考えています。そこは、さまざまな専門職が集い意見を交換する場、学が場、地域の方もふらりと寄れる場にしていきたいですね。人が息づく地域の「すまい」と「くらし」をかたちづくる。地域の「建築士」として、地域に根をおろした活動をしていきたいと考えています。五木源住宅にて「すまいとりのわ」を建築中！木の香りに包まれて、学びあいましょう。

本塾での学びが役立ったことは？

今後の活動に向けて
ビジョンを持つことの
大切さを再認識

本塾に参加したのは、2015年、五木村4年目でした。5年の任期終了後の活動について悩みつづける参加です。講師からのお話を聞いて視野が広がったことはもちろんですが、他の参加者との交流も非常に刺激を受けました。明確なビジョンを持つという方、地域の課題や強みについて把握されている方、いろんな参加者と話す機会があり、しっかりとした主体性とビジョンを持つことの大切さを再認識することができました。

Message

これからむらづくり活動を
考えている方へ

「熊本むらづくり人材育成塾」のチラシを手にとったり、HPを見たりしている人は、ぼんやりとながらも、地域で何かをしたいと考えていると思います。いろいろな人の話を聞くことで、自分が地域に対して何ができるのか、どんな役割を果たせるのか、ビジョンが見えてくると思います。

Message

これからむらづくり活動を
考えている方へ

これから、地域づくり活動をしようとしている人は、常に目的と課題を語れるようにしておくことが大事だと思います。明確な目的と課題を話すことができれば、同じ志を持った人と連携することができると思います。

Front runner case examples!!



18

誰もが生きることを楽しむ、
弱者がいけない地域共生社会を目指して

前田 博典
Hironori Maeda
(錦町)

profile

「社会福祉法人 豊心の里」理事長。
これまで培ってきた地域づくり活動のノウハウを活かし、地域共生社会の実現を目指す。

連絡先：社会福祉法人 豊心の里
0966-38-3889

- 【受講年度】令和2年度
- 【受講した主な講座】
- ◎ヒトひとりが暮らし価値～移住者が起こす小さなコミュニティづくり～
- ◎ありのままのグリーンツーリズム



「地域密着型老人福祉施設 錦寿豊苑」の運営に力を注いで10年になります。これまでにもさまざまな形で地域づくり活動に取り組んできました。2004年には「NPO法人 相良田舎館」を設立し、地域の魅力を伝えるために、球磨工業高校カヌー部や南稜高校馬術部と連携し、福岡のFコープ生協と連携したサマーキャンプを実施しました。

これまでのむらづくり活動は？
地域に根差した、
密着型の
「農福連携」を展開

その後、「社会福祉法人 豊心の里」を立ち上げ、錦寿豊苑の運営に着手。2017年ごろに施設に隣接する耕作放棄地を農地造成し、粟や和綿の栽培を行う「農福連携」に取り組んでいます。耕作放棄地の活用や障害者の雇用の創出、地域社会への貢献が目的です。

今後、取り組みたいことは？
地域共生社会の
実現に向けた
「共生」の館」構想の実現へ

Message
これからむらづくり活動を
考えている方へ

地域づくり活動は、一人だけで取り組むのは難しいです。想いを同じくする人とのつながりが重要であり、つながりのきっかけとなる本塾のような場を積極的に活用するべきだと思います。

Front runner case examples!!



17

歴史や文化の伝承を目指し、
地域の魅力を伝えていきたい

城本 眞澄・誠也
Masumi, Seiya Shiroto
(益城町)

profile

「赤井台地の史跡を守る会」所属。益城や赤井地区に伝わる歴史や伝承を伝えるため、フットパスの造成や、古い屋敷の保護活動などの取り組みを精力的に行う。

連絡先：古民家農家民泊【城みち】
090-5388-9187

- 【受講年度】令和元年度
- 【受講した主な講座】
- ◎外国人も引き寄せる農家民泊とお客さんとのふれあいの楽しさ
- ◎暮らしを仕事に！農家民泊の忙しいスローライフ



これまでのむらづくり活動は？
生まれ育った地域の
歴史や文化を
後世へ受け継ぐ

今後、取り組みたいことは？
歴史的価値のある家屋や
文化などの地域の宝を
新たな切り口で魅力発信

Message
これからむらづくり活動を
考えている方へ

想いを持ってまちづくりに取り組もうとした際に、総意をまとめ、地区で始めようとする足並みが揃わないことがあります。まずは心許せる親しい者で立ち上げるのが大事だと思います。

Front runner case examples!!



20

鶴喰のブランディングから、
地域産品のさらなる魅力発信へ

早川 博秋
Hiroyuki Hasekawa
(八代市)

profile

中山間における農地集積の重点地区として指定された鶴喰にて「農業を基盤として、地域住民の生活と土地を守り、次世代に継ぐ」を経営理念に掲げ、「農事組合法人鶴喰の花村」を設立
連絡先：農事組合法人 鶴喰の花村
0965-36-2202

- 【受講年度】平成27年度
- 【受講した主な講座】
 - ◎売れなければ特産品とは呼べない！～六次産業化・農商工連携の実践編
 - ◎地域らしさを食に載せて～ジビエなどの産品を活用したメニュー考案の手法～

これまでのむらづくり活動は？

食や温泉、体験を活かし、
鶴喰地区の
ブランディングを目指す

「農事組合法人鶴喰の花村」では、秋から春にかけて年に4回ほどモニターツアーを行っていました。鶴喰米のブランディング、ひいては鶴喰という地域のブランディングにつながり、若者の移住・定住による鶴喰地域での収益につなげていくことが目的です。

モニターツアーでは農業体験や収穫体験、しめ縄作りなどの地域ならではの体験と農家レストランでの食事、さかもと温泉センタークレーンや道の駅さかもとの買い物や行程として組み込むなど、地域内消費の増加に貢献してきました。活動を通して認知度が上がってきたおかげか、ふるさと納税の返礼品として鶴喰米が注文されるようになってきました。



19

頑張りすぎない身の丈にあった
地域づくりを続けていきたい

野口 修一
Shuichi Noguchi
(宇土市)

profile

宇土市議会議員。うとフットバス協会会長として、地域の食や資源を組み合わせたフットバスイベントを主催し、地域婦人会や地域団体とともに活動を続けている。
所属：うとフットバス協会
連絡先：090-3666-7682

- 【受講年度】令和元年度
- 【受講した主な講座】
 - ◎未来ある村心の旅へ～農泊発祥の地安心院1993年から2018年の取組～
 - ◎ヒトひとり暮らしが暮らし価値～移住者が起こす小さなコミュニティづくり～

これまでのむらづくり活動は？

網引町に合った
地域づくりを探して出合った
フットバスという手段

自然豊かな宇土市網引町の魅力を伝え知っていたため地域の地域づくり活動として、どんな取組が網引町に合っているかを学ぶため、さまざまな地域活動の先進地を訪ねました。その中で、地域の人たちが無理をせず、小さく動けるところから始めたのがフットバスでした。山からの湧水が豊富な網引町の棚田で育ったお米を使い、食のイベントに結び付けられる点も良かったと思っています。少しずつ続けていると、みんなが興味を持って関わってくれるようになり、婦人会による食事や各コースの運営を手伝ってもらえるようになりました。今では宇土市に6つのフットバスコースが整備されています。



今後、取り組みたいことは？

フットバスの取り組みを
きっかけとして広がる
網引町産品の展開

今後はフットバスの取り組みを継続しつつ、地域内収入につながるように網引棚田米の販路拡大や新たな地域資源を開発していきたいと思っています。特に網引棚田米のさらなる魅力発信を目指し、ふるさと納税の返礼品ラインアップの磨き上げやお米を使ったお酒の開発など、チャレンジしていきたいと思っています。

また、フットバスの展開のひとつとして、サイクリングコースの整備も行い、より多くの方が宇土を訪れ、網引町のファンになってもらい、まわりまわって農家にお金が落ちる仕組みを作りたいと思います。

本塾での学びが役立ったことは？

各地の実践者との語らいが
自分事の取り組みの
血や肉となる

本塾の講座がきっかけで大分県宇佐市安心院町や、その他のエリアに視察に行くようになりました。安心院町での現地研修をきっかけにつながった宮崎県の黒木さんとは、時々やり取りをしています。人吉の農家民泊では、地元のお母さん方に教わりながら、料理も体験しました。そこでは、他県から来られていた農家民泊の実践者とお話する機会があり、すごく参考になりました。

今後、取り組みたいことは？

「伝承」と「チャレンジ」という
2本柱で鶴喰地区の
さらなる活性化へ

ツアーの中に組み込んできた農家レストランですが、担い手の高齢化や新型コロナウイルス感染症の拡大により活動が難しくなってきました。そこで、収支の観点も重視した持続可能なスタイルとして、鶴喰での郷土食の伝承を目標とした「しょうが、梅、にんにく」のお漬物やぼたもちを製造し、道の駅やイベント会場での販売、通販を行っていかうと考えています。

新しい取り組みとして、耕作放棄地の有効活用を目指し、エミューの飼育にチャレンジしています。今は、27歳の若者が広島から鶴喰にUターンし、エミューの飼育に取り組んでいるので、定着に向けてサポートしていきたいと考えています。

本塾での学びが役立ったことは？

継続を見据え、
収支の観点から考えた
計画の重要性を再認識

本塾のアドバイザー派遣で、料理人の小野貴史さんに来ていただきました。味に関するアドバイスだけでなく、作業工程や収支に関するアドバイスをいただき、農家レストランにおける担い手の負担の軽減や収支の管理に関する考え方について学ぶことができました。

Message

これからむらづくり活動を
考えている方へ

地域づくり活動を始め、続けていくには想いだけでは難しい。継続の為にボランティアでは限度があるので、始める前から考えておいたほうがいいと思います。

Message

これからむらづくり活動を
考えている方へ

以前、農業のサミットを開催しようとしたときに、うまくいくか悩んでいたのですが、動き出してから手助けしてくれるところも現れ、好転しました。悩むことよりも始める。何事も始めないと始まらない。一歩踏み出す勇気があればなんでもできます。